

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	中川村
----------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産材利用促進事業
事業費 5,758,560 円 (うち支援金: 674,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中川村に広がる山林は地域の共有林として管理され個人に分割された森林が多いが、近年森林所有者の山離れが進み、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。木材価格の低迷や、次世代の担い手不足等も課題となっている。放置森林が増えることによって地域への鳥獣被害が深刻な問題となっており、長期的な視野を持った、早急な対応が求められる。

(2) 本事業の目的

県産材の利用促進を図るため村内の公共施設に県産材を利用した設備の充実を促進する。特に今事業実施箇所の中川中学校では玄関ホールにはふんだんに木材が使用されているが、下駄箱は長年使用され赤さびが発生している金属製の下駄箱となっている。昨年村有林内で間伐されたヒノキを使用した下駄箱に更新することで、玄関ホールもより暖かい空間となる。生徒にも木の温もりを直に感じて貰い、愛着をもって使用する心を養いたい。また、1年生は昨年村有林で開催された植樹祭にも参加しており、森林・林業への関心を持ってもらい、木材利用についてもさらに理解を深めて貰う事を目的とする。

事業内容

(1) 実施場所 中川村立 中川中学校

(2) 対象者 中川村

(3) 実施方法

- ・県産材(村有林からの間伐材)を使用した木製下駄箱の設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

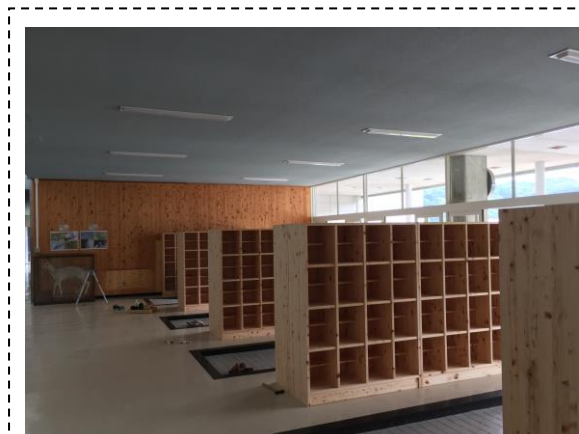
①全体計画(令和元年度)

中学校下駄箱の木質化

(仮組状態で納品し、組み立て作業の一部を生徒と協力して行う。)

②平成 30 年度実績

県産材を使用した階段スロープの設置(中川村陣馬形山頂)



事業効果

(1) 事業実施による効果

本事業の実施により生徒に村木であるヒノキを身近に感じてもらう事で、木のぬくもりや利便性を感じてもらい、木材への関心を高めてもらうと共に森林整備の必要性などがPRできる。

(2) 継続性

村内の公共設備の更新や周辺森林の整備など、関係機関と連携しながら継続的に事業を進めていく。

(3) 普及性

中学校の玄関ホールの下駄箱を県産材を利用して木質化することで、来校者や保護者にも広くPRすることができる。特に先生や生徒は毎日利用する物なので、木の温もりを肌で感じて貰う事ができ、大きな普及効果が見込まれる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

中学校の玄関ホールに村有林から搬出したヒノキ材を利用した下駄箱を設置したことで玄関がより明るく感じられ、ヒノキ独特のにおいや肌触りを身近に楽しんでもらえるようになった。教員や生徒だけではなく保護者や来賓者からも喜んでもらっており、本事業の目的は達成できたと考えている。今後も村内の公共施設を中心に木材をより身近に感じてもらえるような環境整備を進めたい。

(2) 課題

木製製品である為、定期的なメンテナンス(防腐剤等のコーティング)が必要となる。時間が経過すると共に木材特有の色合いに変化していくのを楽しみながら、長く大切に使用してもらいたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今年度は中学校の毎日使用する下駄箱を木質化したことで、より身近に森林税や木材の温もりを感じてもらう事が出来た。今後も村内公共施設の要望も取り入れながら整備を進めていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)